

啓 発 活 動

平成 13 年度実験センター見学者実績

実験センターは、流域内の住民や関係機関への水質浄化事業の広報および水質浄化に係わる教材として、浄化の原理や生態系の創出過程を学べる場としての役割が期待されることから、各依頼に応じて見学を行っている。

平成 13 年度実験センター見学に関するデータを図 1 に示す。

平成 13 年度は 96 件、1760 人に対して見学を行っており、実験センター完成から約 5 年経過したにもかかわらず、依然として多くの見学者が訪れている。

見学者を団体別にみると、実際に水質浄化事業に取り組んでいる官公庁や民間企業の見学者が多い傾向にある。また、近年、海外から研修で訪れる人が増加している。

これらの見学者が多く訪れる理由として、実験センターが、実施に近い設備を用いて実験に取り組んでいることから、水質浄化事業を行う際の参考資料として適していることが考えられる。

また、各学校が「総合的な学習の時間」で環境学習に取り組むケースが多く、その一環として、実験センターを学習の場として利用したいという希望が増加している。

このような環境学習の場として、実験センターをどのように活用して行くかが、今後の課題である。

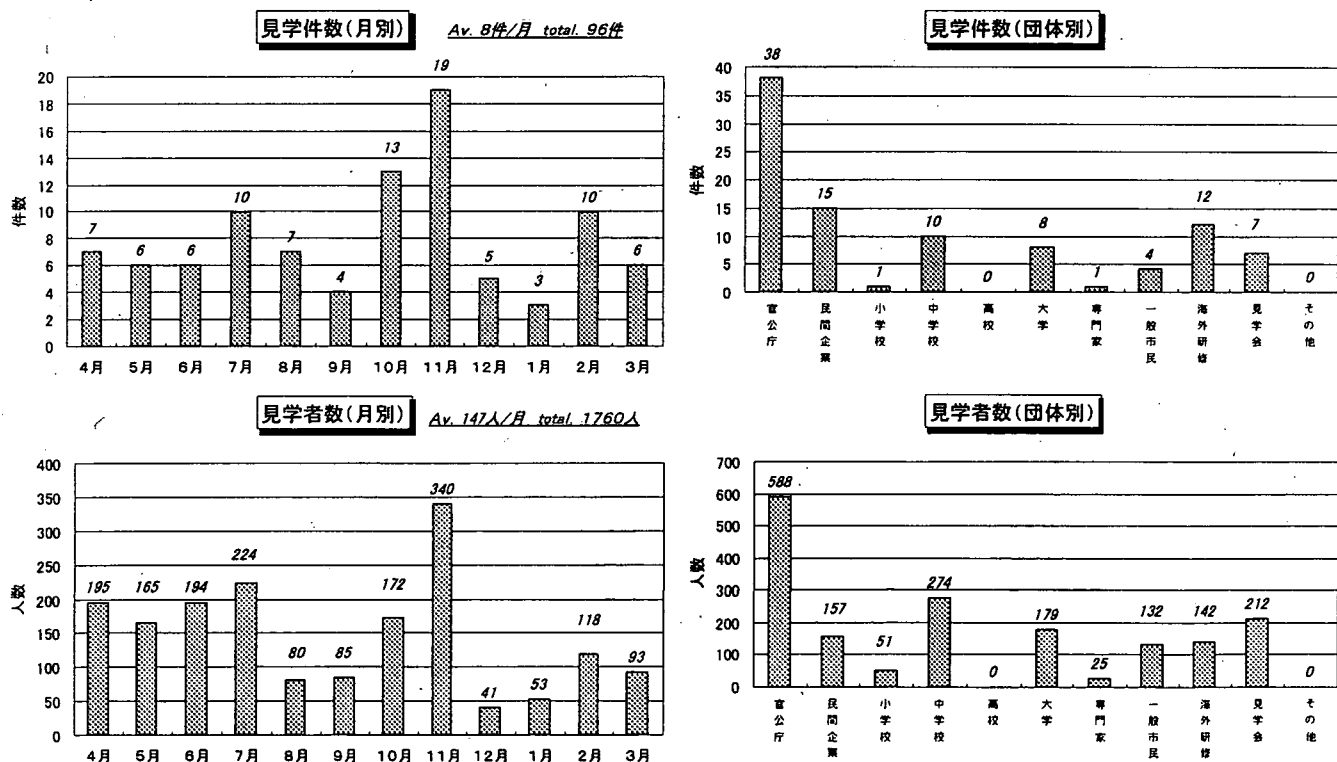


図 1 実験センター見学に関するデータ

実験センター生き物調査

一自然観察会一

琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センターでは、水辺環境の創造に役立てるための基礎データの収集を目的に、多自然型水路を中心とした施設において生き物が生息しやすい環境づくり（ビオトープづくり）の調査を行っている。また、平成11年度からは地域住民の方々とネットワークによる一体となった水辺環境づくりに取り組むべく、実験センターにて生き物調査を実施している。

そこで今年度も引き続き、夏季に「平成13年度自然観察会」を行った。昨年度までは同日に植物、水生動物いずれかのコースに分けて実施していたが、今年度は「いろいろな調査内容を体験したい」との参加者の声に基づき2日間に分けて観察会を実施し、第1回は植物の観察と標本づくり、第2回は水生動物やプランクトンの調査・観察とした。また、希望者には両日とも参加できるように配慮した。

1. 日時

第1回自然観察会（植物） 平成13年7月15日（日） 10:00 ~

12:15

第2回自然観察会（水生動物） 平成13年8月4日（土） 10:00~12:15

2. 場所

琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター（滋賀県草津市志那町地先）

3. プログラム

当日のプログラムを表 3-1 に示す。

表 3-1 当日プログラム

時 間		
9:30~10:00	受付	
10:00~10:02	開会挨拶	
10:02~10:05	講師紹介	
10:05~10:10	施設の概要説明	
10:10~10:15	平成 12 年度に実験センターで観察された生き物の説明	
10:15~10:20	注意事項、スタッフ紹介	
	(第 1 回 植物)	(第 2 回 水生動物)
10:20~10:45	調査の仕方、観察	調査方法の説明・実演
10:45~11:15	"	自然観察・調査体験
11:15~11:40	標本の作り方説明・体験	プランクトン観察・説明、まとめ
11:40~12:00	感想・観察結果発表	
12:00~12:10	講評	
12:10~12:15	アンケート記入、質疑応答	
12:15	閉会挨拶	

参加者は草津駅からの送迎バス（参加申し込み時に利用の有無を申し出てもらった）または、自家用車などで各自実験センターに集合するようにした。9:30 から受付を開始し、10:00 から開始とした。開会挨拶、講師の先生がた（琵琶湖博物館の学芸員）の紹介、施設の概要説明、平成 12 年度の調査で確認された生物の概要説明、注意事項などは第 1 回、第 2 回とも同様に進行した。

第 1 回自然観察会では植物調査として、スタッフがついて約 10 名ずつの 2 班に分かれ、実験センターを時計回りと反時計回りの 2 コースで植物調査の実演、自然観察と植物の採取を行った後、開会・閉会の会場である見学者棟に戻り、標本づくりを行った。

第 2 回自然観察会では水生動物調査として、調査方法の実演を見学した後、1、2 人の担当スタッフがついて各班に分かれ、自然観察、投網やプランクトンネットの体験をした後、見学者棟でプランクトンの観察を行い、会場である野外のテントで採取した動物を観察した。

第 1 回、第 2 回とも最後に感想などを発表した後、講師の先生がたからの講評、アンケート記入、閉会挨拶を行った。

4. 当日の配布物

当日、参加者への配布物は、名札、プログラム、注意事項、琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センターパンフレット、実験センター内で観察された生き物をまとめた「Biyo センターの生き物たち」、BY BLUE、アンケート用紙であった。

5. 主催・協力

<主催>

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構、国土交通省近畿地方整備局、滋賀県、水資源開発公団関西支社

<協力>

滋賀県立琵琶湖博物館、草津市、関西電力(株)、(社)大阪自然環境保全協会

6. 結果

(1) 参加者

応募者は45人(男:30人、女:15人)で、うち、第1回、第2回両方参加希望者は6人であったので、のべ51人の応募があったことになる。参加者は第1回が17人、第2回が29人であった。参加者の年齢層は5歳~76歳と幅広く、応募者の住所は大阪府下11人、滋賀県下34人であった。第1回自然観察会では10人ずつに2班、第2回自然観察会は8人ずつに4班にわけ、各班にスタッフがついて班単位で観察を行った。

(2) 実施状況

実施状況を写真6-1から写真6-3に示す。

写真6-1

調査方法の実演



写真 6-2

自然観察（水生動物班）



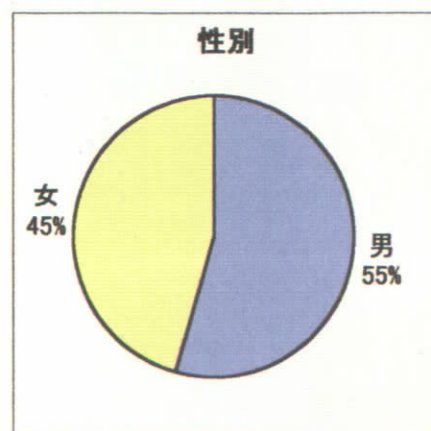
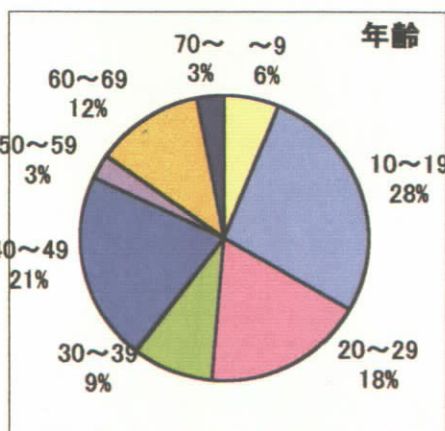
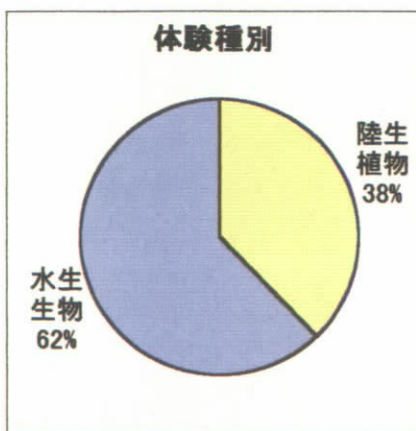
写真 6-3

植物標本作り



(3) アンケート結果

今後の参考のためにアンケート調査を行った。アンケートの記入者は33人であった。その結果を図6-1、自由記述欄の記述結果を表6-1に示す。



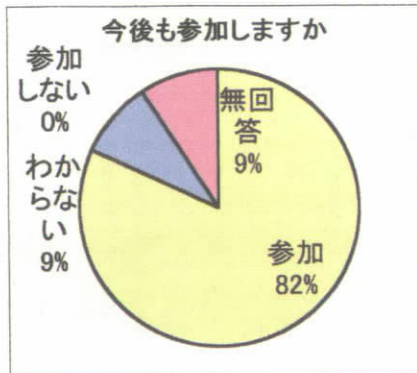
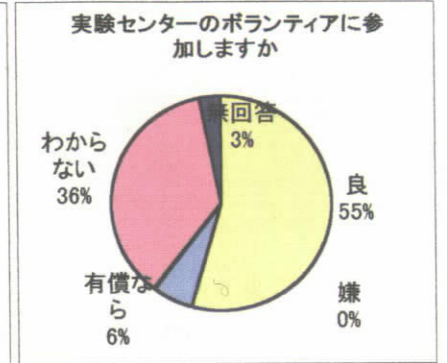
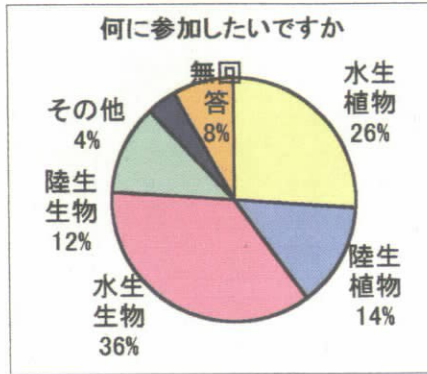
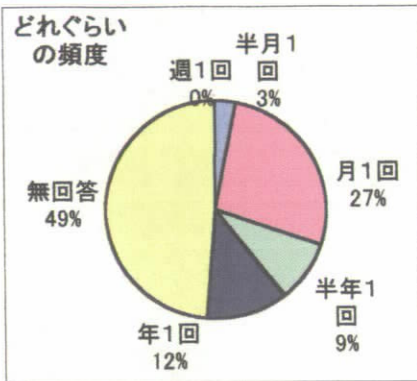
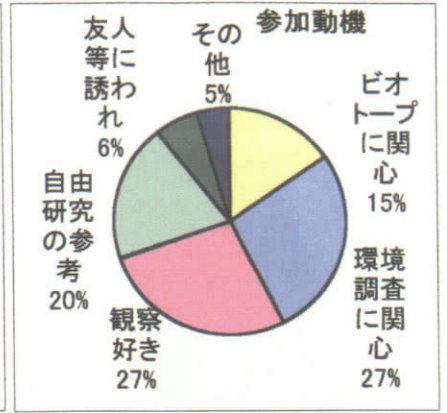
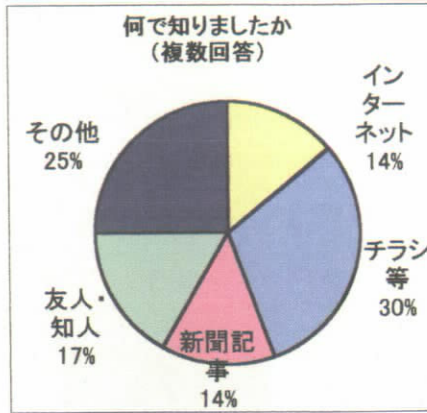
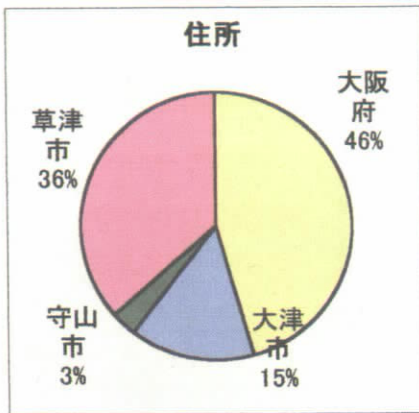


図 6-1 アンケート調査結果

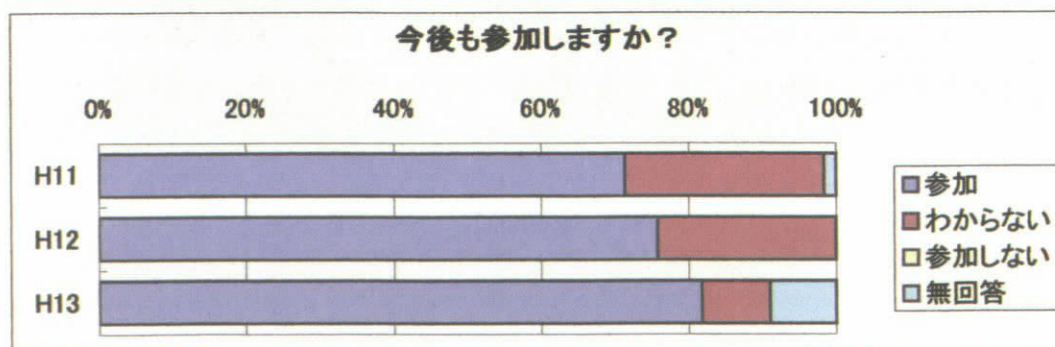
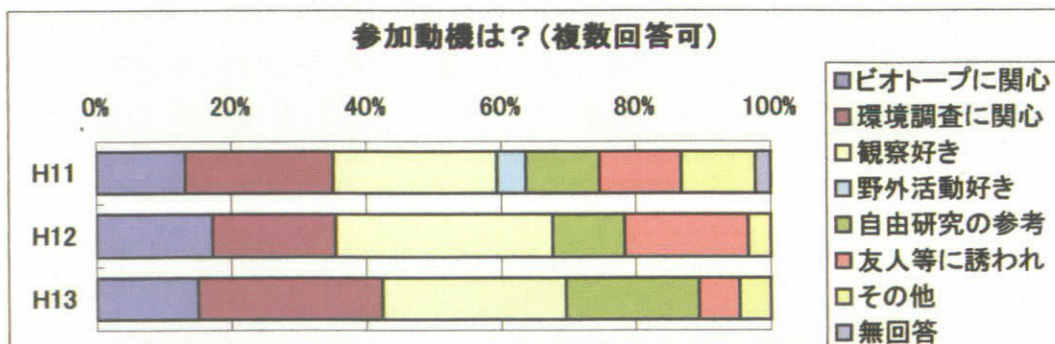
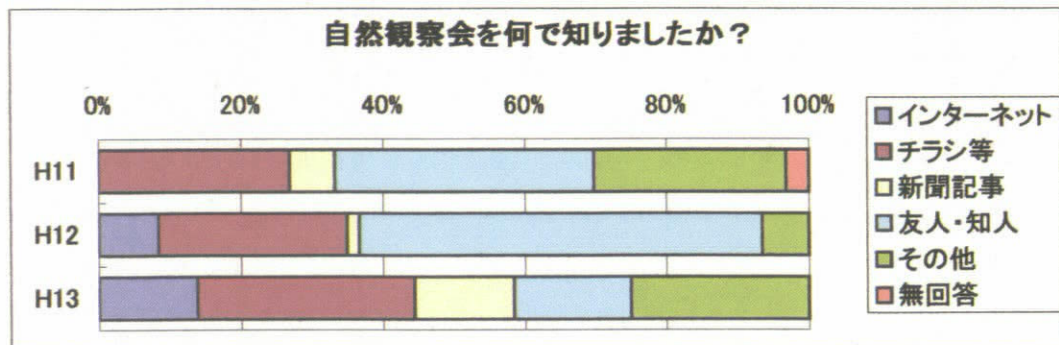
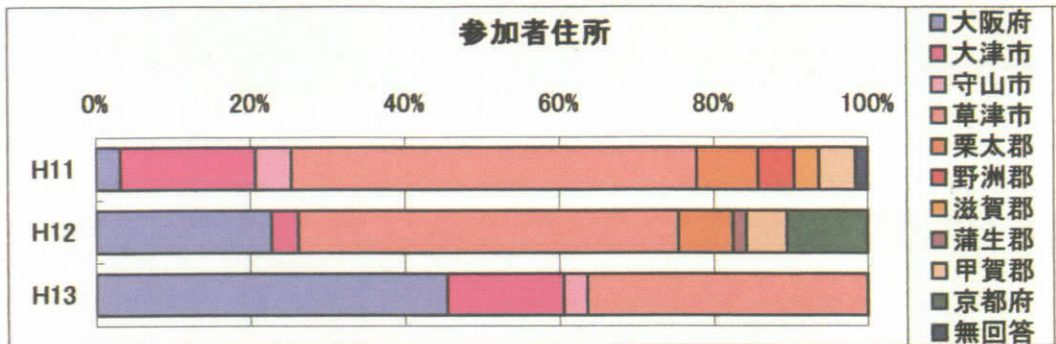
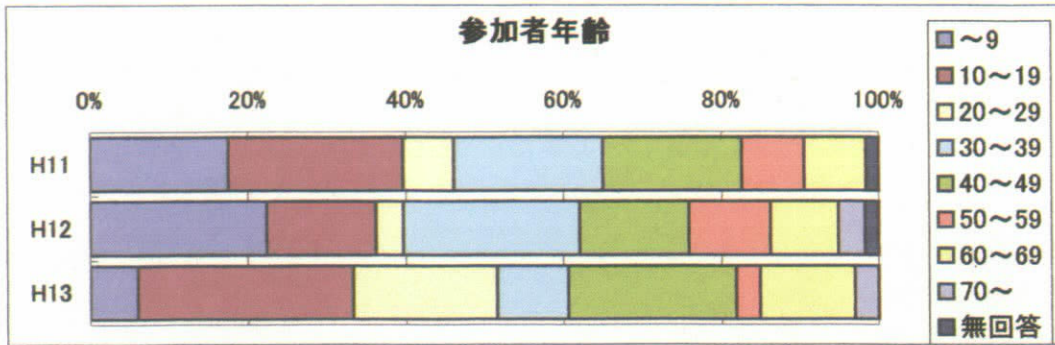
表 6-1 アンケート調査結果（自由記述欄）

人数	内 容
5	楽しかった。(色々な生物がいて楽しかった。暑かったけど楽しかった等)
4	プランクトン、とあみ等実体験できて良かった。
3	また、来たいです。
3	暑かった。
2	知らない植物を少しでも知れて良かった。
2	魚がいた。(色々な魚がいっぱいいた)
2	魚を捕まえる時間、プランクトンを見る時間をもう少しほしい。
2	1年中植物を観察してみたい。標本作り楽しかったです。
1	水をきれいにしたい。
1	あまり魚が取れなかった。
1	Biyoセンターがある事すら、知らなかったが、大変興味深く、観察させて頂いた。
1	来たかいがあった。
1	子供達が自由に楽しそうに参加している様子が印象的でした。
1	アユが取れた時は、非常にビックリしました。
1	きれいな水に生きる動物、植物を観察したい。
1	採集した植物の名前を1つも知らなかったで、図鑑を見て調べようと思った。
1	子どもと一緒に出来てよかった。
1	採取しながら、名前を教えてほしい。子供に少しでも関心を持って欲しいと連れてきました。

参加者の性別は男 55%、女 45%と若干男性の方が多かった。年齢は、10歳～19歳が一番多く 28%で、次いで 40～49歳の 21%、20～29歳の 18%であった。19歳以下の参加者が 34%、30～49歳の参加者が 30%を占めており、参加条件として小学校3年生以下は父兄同伴としたことから、親子連れの参加者でほぼ 60%であったと推測できる。昨年度もこの親子連れと考えられる参加者で約 70%と、ほぼ同じ傾向を示している。

自由記入では、「楽しかった」「良かった」というだけでなく様々な感想、意見があったが、「また参加したい。」や「知らない生物を知ることができ、これからも調べてみたい」といった積極的な感想が多かった。また、「子供と一緒に観察できて良かった」など、このようなイベントの必要性を感じた意見や、「水をきれいにしたい」「Biyoセンターの事は知らなかったが、興味を持った」など、環境問題に関心を高めたと思われる意見も記入されており、このような啓発活動を続けていくことの重要性が示唆されている。

平成 11、12、13 年度の 3 年間でのアンケートの傾向の比較を行った結果を図 6-2 に示す。



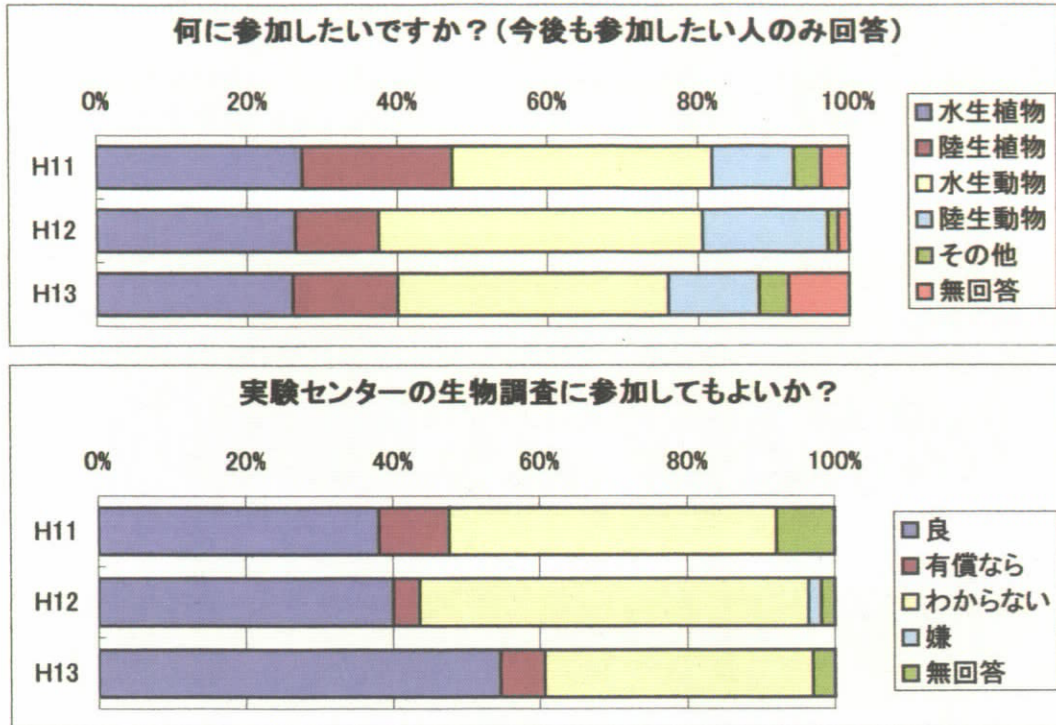


図 6-2 アンケート回答傾向

実験センター近隣の草津市内居住者は 52%→48%→36%と減少し、反対に大阪府居住者が 3%→23%→46%と着実に増加している。昨年度より、大阪府下の教育委員会（淀川に面した枚方市、守口市など）、大阪の自然保護団体などを通じて、チラシを配布して広く募集した効果があったと考えられる。このことは、自然観察会を「チラシやポスターで知り参加した」人が 30%と一番多く、次いで「友人や知人から聞いて知り参加した」人 17%となったことから推測でき、またその他の欄には「学校の先生を通じて」との記載も 2 人ほどあり、環境学習などに積極的な教育機関を通じて参加を呼びかけるのが効果的であると考えられる。また、「インターネットを見て参加した」人が少しずつ増加し、チラシや、いわゆるクチコミの威力にはかなわないが、広範囲の人々に募集を呼びかける手段として今後積極的に活用できる可能性がある。

参加した動機は、「身近な自然（動物や植物）を観察してみたかったから」、「環境問題や環境教育に関心があるから」が多くそれぞれ 27%であった。ついで、「夏休みの自由研究の参考に」が平成 13 年度 20%を占め、小学生（およびその親）などには興味を持っていただけの内容だったと考えられる。

今後もこのような生き物調査を実施した場合に参加するかの問いには、3 年間を通じて 70～80%が「参加する」と答え、今まで開催していないが陸生動物などにも参加を希望している。

また、実験センターでの生物調査に参加できるかの問いには 40～50%が「良い」と答え、アンケート対象に小学生なども入っていることを考慮すると、協力対象を学生や地元の保

護団体などに絞れば、地域住民との連携を図りながら調査を行うことも検討できる可能性
がある。

(4) マスコミ取材状況

大手前記者クラブ、近畿建設記者クラブ、滋賀県政記者クラブやマスコミ数社に実験
センター生き物調査（自然観察会）の開催案内を事前に通知したところ、中日新聞社の取
材があった。掲載記事を記事 6-1 に示す。



漁具を使った魚の取り方の説明を受ける参加者＝草
津市の琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センターで

魚類や底生生物調査

自然
観察会

漁具の仕掛けも学ぶ

草津の浄化
センター

草津市の琵琶湖・淀川 開かれた。
水質浄化共同実験センター センターは県や旧建設
で四日、自然観察会が 省などが造り、広さ約五

万平方メートル。多自然型水路
などがあり、それらを通
じてビオトープ（生物の
生息空間）づくりが進め
られている。センターの
調査では、二百種類以上
の植物や昆虫などの生息
が確認されている。観察
会は、センターの事業を
委託されている琵琶湖・
淀川水質保全機構などが
企画した。

県内外から約二十人が
参加し、魚類や底生生物
を調査した。四班に分か
れ、県立琵琶湖博物館の
学芸員などの指導で、ま
ず採取のための漁具の仕
掛け方をはじめ、投網な
どの投げ方などを教わっ
た。この後、人工の水路
や池で試し、メダカなど
の魚がかかると大喜びし
ていた。また、顕微鏡を
使って、琵琶湖とセンタ
ー内の池のプランクトン
の種類を比較した。

(5) 動植物調査結果

「自然観察会」の動植物調査結果を資料6に示す。この自然観察会において新しく確認された種はなかったが、第2回(8/4)の水生动物の自然観察中に、多自然型水路中流部でシマヘビが見つかった。ヘビを見るのも触るのも初めてという参加者もあり、このような造成地でも植生が変化し、そこに餌となる生物が生息することで、かなり大きなは虫類も生息できることを実感する良い機会となったと思われる。

7. まとめ

この自然観察会は平成11年度から実施し、今年度が3回目であるが、Biyoセンターの取り組みの啓発活動、環境学習の場の提供などの意義は大きいと思われる。今後も同様の啓発活動として実施する場合、どのような年齢層・地域を募集対象とするか、今まで行っていない陸生昆虫の観察など内容の拡大、夏以外の春や秋の開催など、検討可能な課題をあげることはできるが、参加者の中で多数を占める夏休みに親子で参加できる自然観察の機会として、継続していくことは重要であると考えている。

第2回琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター成果発表会および見学会

1. 目的

琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター（Biyoセンター）での取り組み内容や実験結果等を官公庁、自治体、大学・研究機関、民間企業および一般の人たちに広く知っていただき、水質浄化に関する広報活動を目的として、平成10年2月8日の第1回に引き続き、第2回を開催した。

2. 内容

(1) 主催

国土交通省近畿地方整備局、滋賀県、水資源開発公団関西支社、(財)琵琶湖・淀川水質保全機構

(2) 日時

成果発表会 平成13年9月20日(木) 10:30~16:45
見学会 9月21日(金) 10:00~11:30

(3) 場所

成果発表会 びわ湖ホール(中ホール)
見学会 琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター

(4) プログラム

「成果発表会」及び「見学会」のスケジュールを下表のとおり示す。

9/20(木) 第2回琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター成果発表会プログラム

時間	内容
10:30~	開会挨拶 <国土交通省近畿地方整備局河川部長 坪香 伸>
10:35~	発表会の開催にあたって <京都大学名誉教授、(財)琵琶湖・淀川水質保全機構学術委員会委員長 芦田 和男>
10:45~	特別講演「生物多様性からみた琵琶湖の生態系保全」 <滋賀県琵琶湖研究所総括研究員 西野 麻知子>
11:45~13:00	－休憩(昼食)－
13:00~	【成果発表1】 ●実験センターの概要と成果 <(財)琵琶湖・淀川水質保全機構 田井中 善雄> ●深池型施設におけるヨシ帯浄化実験 <国土交通省琵琶湖工事事務所 春木 二三男> ●琵琶湖岸におけるヨシ植栽実験<水資源開発公団琵琶湖開発総合管理所 大村 朋広> ●浅池型施設における植生浄化実験 <滋賀県湖南地域振興局 今井 崇> ●多自然型水路における生態系調査 <国土交通省琵琶湖工事事務所 中村 超>
14:50~	－休憩－
15:10~	【成果発表2】 ●土壌浄化施設における土壌浸透浄化実験 <(財)琵琶湖・淀川水質保全機構 和田 桂子> ●自然循環方式浄化実験 <(財)琵琶湖・淀川水質保全機構 三井 光彦> ●琵琶湖型実験池におけるひも状繊維接触材方式浄化実験 <(財)琵琶湖・淀川水質保全機構 馬場 玲子> ●水路型施設における不織布接触材方式浄化実験 <(財)琵琶湖・淀川水質保全機構 堀野 善司>
16:40~	閉会挨拶 <(財)琵琶湖・淀川水質保全機構 事務局長 穂波 宣員>

9/21（金）琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター見学会 スケジュール

時間	内容
9:30	草津駅西口集合（バス利用者）
9:45	草津駅西口出発
10:00～11:30	実験センター見学会
12:00	草津駅西口解散

(5) 当日の配布物

成果発表会参加者には「第2回琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター成果発表会 講演集」、アンケート用紙、質問用紙等の資料を配布した。

3. 結果

(1) 参加者状況

・成果発表会

参加申込み者数は273名であったが、当日参加を含め、最終的に316名の方々に参加いただいた。内訳としては、一般企業155名、官公庁・自治体等95名、大学・研究機関等17名、団体・一般49名であった（他に4名の報道関係者があった。）。

・実験センター見学会

参加申込み者数は、97名であったが、当日の参加は73名であった。内訳は、一般企業38名、官公庁・自治体等21名、大学・研究機関等4名、団体・一般10名である。

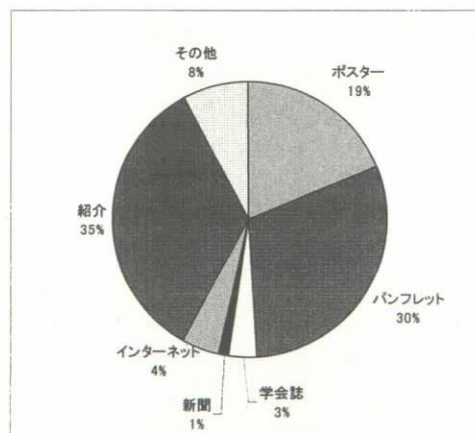
草津駅から実験センターまでの交通手段がないため、バスを2台手配し、送迎を行った。

(2) アンケート集計結果

今後の参考のためにアンケート用紙を配布し、参加者の意見、要望、質問を伺った。アンケートの記入者は87名であり、アンケートの内容と結果は以下のとおりである。

1) 成果発表会のことをどこでお知りになりましたか。(複数回答含め、全回答数90。)

ポスター・パンフレットによる告知が約半数を占める結果となった。しかし、最も多いのは、紹介(35%)であり、今後、さらに多方面の参加を呼び込むためには、手法を検討する必要がある。



2) 成果発表会を聞かれて、どの発表に興味を持たれましたか。また、それはどのような点についてですか。(意見抜粋)

【特別講演「生物多様性からみた琵琶湖の生態系保全」】

- ・近年の生物種の変化についての行政（特に治水面）の影響について。
- ・非常に長期的な視点から琵琶湖の保全に対する考えを述べていて、大変すばらしいと思う。
- ・動植物の激変の実態。温暖化に伴う上下混合の減少。効率優先の生態系破壊（漁場整備、湖岸整備）。

【深池型施設におけるヨシ帯浄化実験】

- ・当財団（淡海環境保全財団）でもヨシ植栽を実施しており、より活着率のよい土壌を見つけたいため。
- ・湖辺にヨシ帯を設けているが、水質浄化に対してどれだけの効果があるのか数値で示している。
- ・ある程度の実験結果が出ており、実験で得たデータ及び内容が、現場に即反映できるものだった。
- ・琵琶湖のヨシは浄化能力の高さが知られているが、実際の浄化能について研究された例は少ないと思う。また、研究途中段階ではあったが、今後の成果に期待したいと思う。
- ・物質収支を計算され理解しやすかった。将来の水質行政のあり方にも言及され、今後の活躍に期待する。理解を深めるため、粒子性と溶解性、有機態と無機態の測定があればなお良い。

【琵琶湖岸におけるヨシ植栽実験】

- ・当社では植生浄化、特に浮島を使った水質浄化を扱っており、データとして大変貴重であった。また、河川接触酸化も扱っており、今回発表された実験結果も大変参考になった。
- ・浄化実験に関してこれから琵琶湖全域にどのようにフィードバックしていくのか？またこれからの実験内容等。期待されるべきことは多くあると思われる。

【浅池型施設における植生浄化実験】

- ・Non-pointにおける農業排水の受け皿として期待。
- ・維持管理における住民参加が可能。花を植えることにより、施設の多目的利用が可能である。
- ・この実験には現状の社会、経済的条件下での実現可能性について、強い配慮があるように感じた。
- ・観賞用植物の水質浄化性能調査について、もう少し調査結果に差が生じると予測したがそれほど大きな差異はなかったようである。今後はより浄化に適した植物の調査を行ってもよいのではないかと。
- ・住民の意見を取り入れた色々な実験が良かった。
- ・住民参加の水質浄化が試行されているが、多くの市民が関心をもっているデータがあった。ハナショウブは、最も効率が悪いとのことだが見栄えがいいのでハナショウブの方が興味がある。
- ・実用化されたときに住民参加がどこまでうまく運用されるのか興味をもった。

【多自然型水路における生態系調査】

- ・ブルーギルやブラックバスの繁殖抑制の可能性について。
- ・えさとなるメダカ等の増加があるのに対し、ブラックバス、ブルーギルの増加がないという結果。
- ・生活している身近な環境に河川があり、その河川は生活空間における条件及び項目の中でコアとなるものである。そのような視点からポイントをおいた。
- ・何も手をつけずに自然を回復させた場合の実データとして興味深かった。
- ・人工的な治水能力を持った河川が生態系も豊かにするという点。
- ・吉野川第十堰の中断は、堰および河道回収後に自然（生物）が回復することを具体的に説明できなかったことによる部分があったと思う。本報告は人工河川に生物が生息できる可能性を示すものであり、有用な調査であると思う。追跡調査を継続されるよう望む。※人工河川の下流で遡上する魚類を制限し場合に魚種による繁殖がどうなるかも興味がある。
- ・「環境の保全」「自然の回復」が叫ばれて久しいものの、本当の（本来の）自然とは何か？その多様性の重要度に目を向け、琵琶湖の環境回復をめざす取り組みにたいへん興味をひかれた。
- ・水質浄化だけではなくレクリエーション機能も果たすことができ、自然による水浄化について人々の関心を集めることができると思った。

【土壌浄化施設における土壌浸透浄化実験】

- 除去率の高い点と目詰まり対策、期間等について、また、ろ過速度等について。
- 日本の都市周辺における休耕田利用の有効利用が、農業排水、ノンポイント排水の処理にも必要が大きいと考える。
- 植生浄化に比べ安定した処理能力が得られる。処理過程が分かりやすい。
- 農業排水負荷における T-P の 6~8 割は懸濁能であり、SS 除去と同時に P は除去できた。これにはろ過方式が適している。T-N 除去には脱窒作用がベストであった。今まで COD 除去はこれといった手法がなかったが、この発表が大いに参考となった。
- 水質浄化において、ろ材がどのような物が有効かという所において気になった。
- 集落排水処理水に利用できれば・・・。
- 実際に草津川に設置して効果を出しているところに感心した。さらに粘り強く頑張ってもらいたい。
- Non-point における T-P, COD の除去性能に期待する。

【自然循環方式浄化実験】

- 今後の処理装置、水路浄化において興味のもてる内容だった。
- 植生浄化に比べ安定した処理能力が得られる。処理過程が分かりやすい。
- もっとコンパクト（幅 $w=1.82m$ まで）になったらいいと思った。
- 市街地からの生活排水浄化に用いたい。

【琵琶湖型実験池におけるひも状繊維接触材方式浄化実験】

- 浄化実験施設の接触材に関する報告で、それを琵琶湖型実験池で実施された目的が不明確である。実験池をミニ琵琶湖と考えた時、琵琶湖の中でどのような事が起きていてそれに対応するにはどのようにしたら良いのかをそこで実験してほしい。第一回成果発表会の時、原水流入点、浄化実験施設、中央部、流入部等での水質変化を追跡していたように覚えている。このようにミニ琵琶湖としての考察を、次回はお願いしたい。
- 「ひも状繊維接触材方式」でのソーラーの活用。
- 化学的なものでなく物理的な効果に興味がある。
- 汚濁区域を重点的に浮上プラント（ソーラー）で処理する方法などに展開できるのですか？

【水路型施設における不織布接触材方式浄化実験】

- 琵琶湖の水質浄化にはノンポイント対策が重要。
- メンテナンス費用について参考になった。
- 今後の処理装置、水路浄化において興味のもてる内容だった。

【その他】

- 全般的に興味を持ったが、特にリンの除去法は難しいので参考になった。
- 全体的に、集水域を含めた琵琶湖地域をどう保全するのかについての知見が少なかったように感じる
- 脱窒、脱磷についての演題についてはすべて興味をもった
- 「琵琶湖底質の性状変化」「ヨシ原帯の浚渫方法」今後、琵琶湖における最適な浚渫方法が求められていることを感じた。
- どの実験でも琵琶湖を水質浄化するとなれば莫大な費用及びメンテナンスが掛かり、実用は不可能ではないかと思った。

- ・全て。どれも自然の浄化能力を強化、利用するオン・サイト方式の処理実験であり、非常に実践的な内容のものであった。実際の現場への適用を積極的に行えるように期待する。基調講演もよかった。時間を倍くらいにとってほしかった。

3) 成果発表会について、ご意見、ご要望等ございましたら、ご自由にお書き下さい。

【内容に関すること】

- ・共同実験センターの開設からまだ数年しか経っていないせいか、長期的な視点を持った試験へのアプローチがやや欠けているように感じる。データが少ないせいかもしれないが、今後の蓄積に期待している。
- ・全般について、実験データの蓄積であり興味深い。主題の設定は公募によるというのも適正であると思い、時代を先取りしたテーマと手法を採用されるよう大いに期待する。
- ・実用化に向けての提案の機会を早く設けてほしい。
- ・研究のレベルが世の中（世界的に）のどのレベルにあるのか。そのような状況が理解できる説明があればよいと思う（自己の世界のみで言々しているように感じた）。
- ・実施への取り組みについての考え方を次回の発表では聞きたい。
- ・近年、湖沼の環境基準達成率が一番悪く（H10年度 40.9%）、N、P及びCODの除去方法についての発表を引き続き聞かせて欲しい。
- ・実験中における問題点あるいは課題について紹介してほしい。
- ・マニアックな発表が多い。実験結果のみでなくその他にも使えるものという観点で取りまとめ発表してほしい。
- ・特別講演は、もう少しグローバルな説明にさせていただくとありがたい。内容的に専門的すぎるきらいがある。
- ・特別講演において、保全事業の目標等に関することに関心が十分持てた。
- ・汚泥の有効利用と汚泥量が少なく高処理ができる方法があればよい（かつコンパクト、エネルギー小）。
- ・実際のデータより得られるものや解析の結果なども大いに組み込んでほしい。
- ・施設ごとの詳細把握も大事だが、各施設間の比較等の発表が物足りなかった。今後この点に期待したい。
- ・実験の結果が実際の施設となって運用されているのが素晴らしい。今後も頑張ってもらいたい。「いがうえの大戸川生活排水浄化パートナー協議会」に協力してほしい。
- ・多自然型水路の発表については、水質の解析を発表すべき。
- ・大いに（成果発表の）成果があると思う。同一施設を活用しての実施及び別の物質の実験も実行して頂くと将来に向けての答えが得やすいのではないかと考える。
- ・浄化実験に自然系が多くなされている。いずれも有用なものであるが、“琵琶湖の改善をどうするのか”の点が不明。つまり毛細血管の部分は着手されているが、動脈部分をどうするか全く見えない。
- ・通常の方法での水質浄化の発表会であったと感じた。もう少し奇抜なアイデア水質浄化があると期待していた。
- ・実験域内のデータ知見がほとんどなので、それを実河川において有効かどうかの検討をより多く行ってほしい。
- ・実験報告のみでなく実際設置されている結果報告も聞かせてほしい。実験期間が長い。もっと効率よく結果を出し、実用化に努め琵琶湖浄化に努めてほしい。

【運営に関すること】

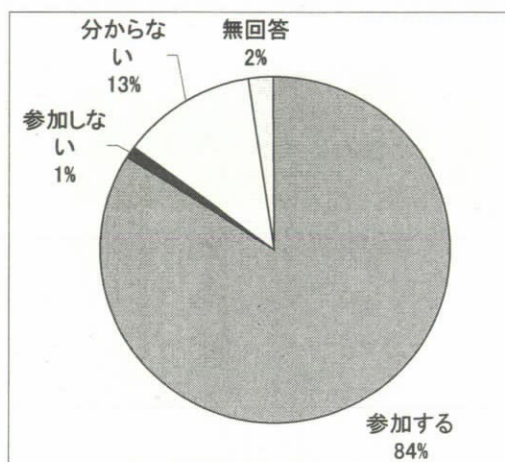
- ・個別発表でもう少し質疑の時間に余裕を持ったほうがよい。
- ・説明がない状態では「北湖」「南湖」という言葉が出てきても理解が不十分な箇所があった。一番最初に琵琶湖

琵琶湖についての地形や環境状態等の説明がほしかった。

- 参加表明後に通知がなく、定員内に入ったかどうか不安だった
- 特別講演の時間が短い。詳しい講演の考えを聞きたかった。
- 参加申し込みをした人に事前に講演集を送付してくれたら、より内容が理解できると感じた。1回目の講演集もみてみたい。
- OHPだけでなく、模型やビデオを使うともっと分かりやすいと思う。
- 会場、「講演集」とも大変立派である。
- 写真撮影がなぜできないのか。可能にしてほしい。
- 立派な会場で、音もよくよく準備された発表でBiyoセンターの実験成果をよく理解できた。
- とてもよかった。コンピューターを使い自動説明したらもっと効果的だと思う
- 今回の「成果発表会」と「実験センター見学会」がセットのものならば日程を逆にした方が理解しやすいと思う。

4) 今後このような発表会があれば参加しますか。

今回の参加者のうち、ほとんどの人(84%)に次回の参加意向を頂くことができた。次回、開催の折には、アンケートにより、頂いた意見を反映して行きたいと考えている。





会場全景：
琵琶湖ホール
(中ホール)



会場入口風景



受付風景



開会挨拶



開催にあたって



特別講演



特別講演

会場風景



データ

葉山川河川水の水質・底質

および農業排水路の水質データ

実験センターでは実験原水として、主に葉山川河川水を使用している。

葉山川の水質調査結果を図1に示す。葉山川は琵琶湖南湖東岸の各流入河川の水質と比較すると平均的な水質である。

また、表1に葉山川の底質調査結果を示す。なお、ここで示す葉山川の底質調査結果は実験センター流入水路内の堆積物を調査した結果である。

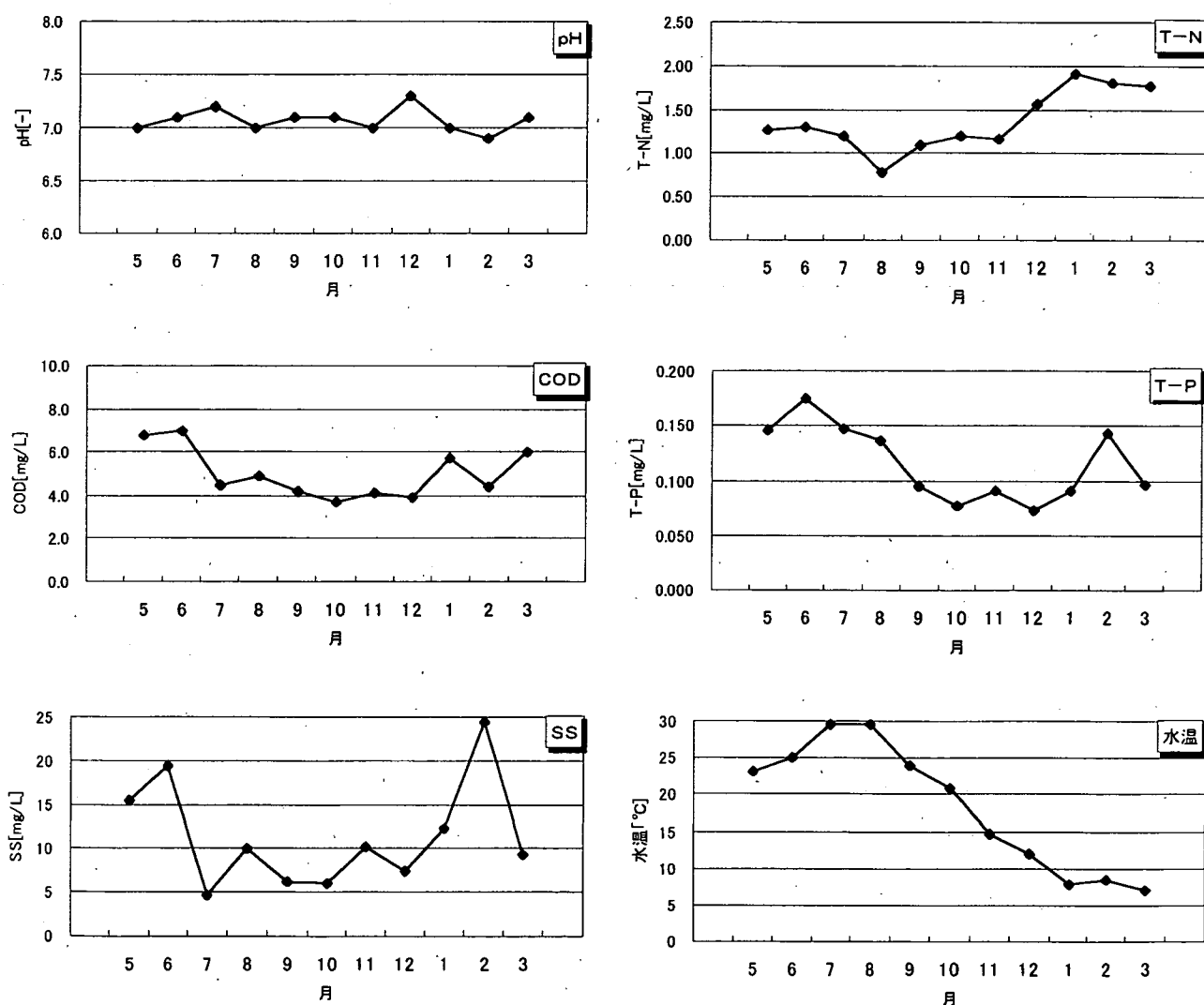


図1 葉山川水質調査結果（平成13年度）

表1 平成13年度 流入水路（葉山川河川水）の底質分析結果

採取日	T-N (mg/g)	T-P (mg/g)	T-C (mg/g)	強熱減量 (%)	備考
9月6日	3.6	4.1	68	14.9	
2月8日	58	4.7	290	55.9	大部分が植物枯死体

また、必要に応じて実験原水として使用している農業排水路の水質調査結果を図2に示す。農業排水路の水は主に田植えの時期に流出する代掻き水の浄化効果を検証する実験などに使用している。

実験センター周辺（滋賀県草津市周辺）の代掻きは4月下旬から5月中旬に行われる。本年度の水質調査は5月下旬から行われたため、代掻き水の水質を反映したデータを取ることができなかった。

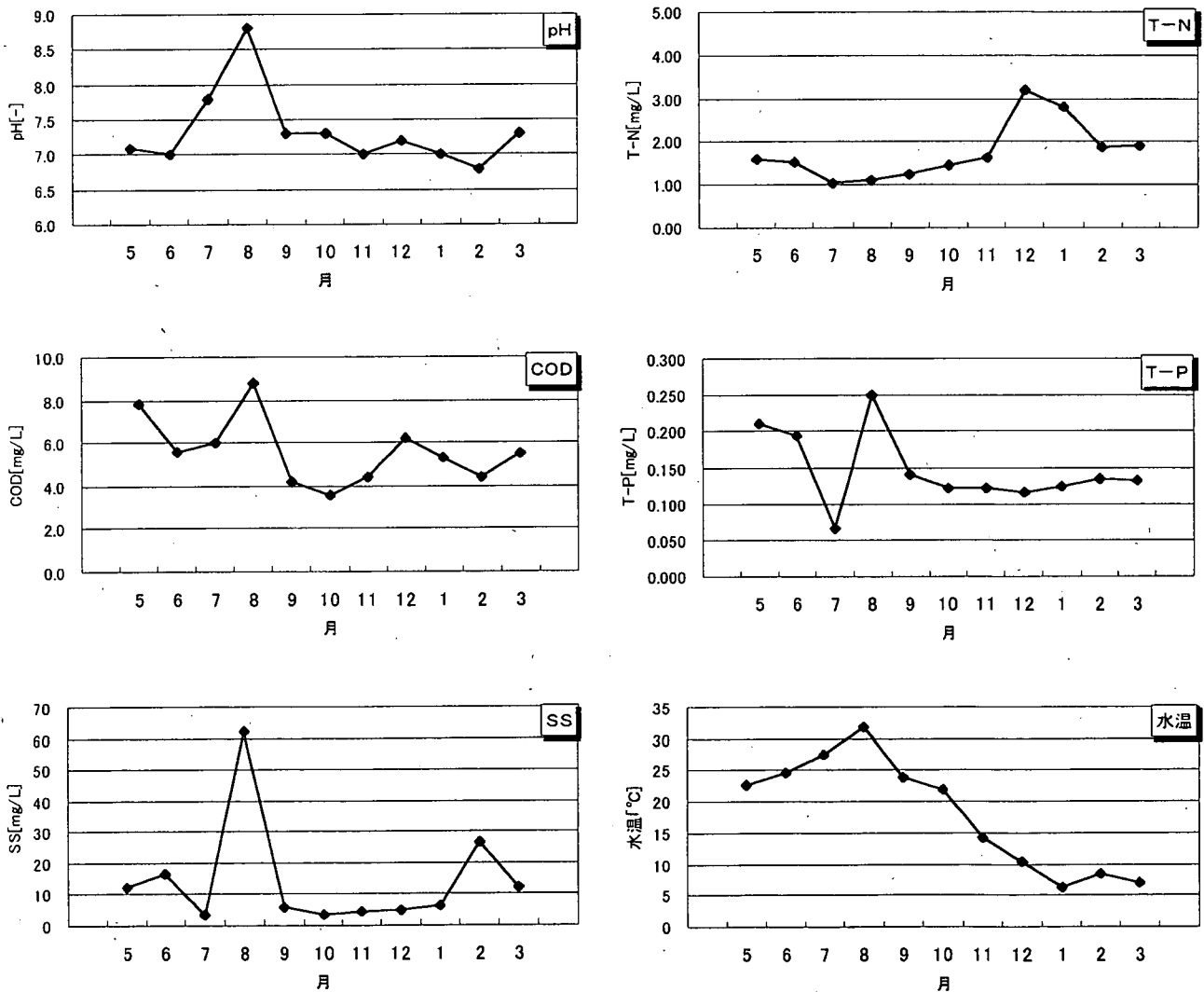


図2 農業排水路の水質調査結果（平成13年度）

琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター年報 第4号
—平成13年度—

発行 2002年9月
国土交通省近畿地方整備局
滋賀県
水資源開発公団関西支社
財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構

実験センター 〒525-0005 滋賀県草津市志那町地先
TEL 077 (568) 2032
FAX 077 (568) 2052

問い合わせ先 財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構
〒541-0041 大阪市中央区北浜1丁目1番30号
TEL 06 (6202) 1267
FAX 06 (6202) 1317
E-mail biyokiko@byq.or.jp